

がんばる企業Ⅱものづくり補助金活用事例紹介Ⅱ

絵画修復工房YeY

「この作品を残したい」その気持ちに応えるための挑戦

絵画修復工房YeYの修復士の齋藤裕子氏・今村友紀氏は、1999年にイタリア・フィレンツェに渡り、美術品修復家養成専門学校にて油彩画修復の理論と技術を学び、トスカナ州認定修復技師免許取得、フィレンツェ内の工房にて修復技術の修業を行いました。その後、2006年より岡山にて油彩画と額縁の保存修復を専門とした工房を開設、さらには作品の管理及び保存方法のアドバイスを、素材及び劣化の調査研究なども行っています。

現在の取り組みや今後の展望について、齋藤氏、今村氏にお話を伺いました。

【取り組み内容】

当社は県内美術館、その他、画廊・個人コレクターを顧客としています。絵具層に亀裂が生じ剥離した絵具層をキャンバスに再定着したり、画面の多様な汚れを絵具層を傷めずに洗浄するといった修復技術をより高精度に行うためには、まず作品の構成素材・損傷状況を詳細に把握するための「作品調査」が非常に重要です。詳細な作品調査は、当社がより作品に適した処置を行う拠り所となるだけでなく、特に美術品を研究・保存する役割を持つ美術館にとっては、作家ごとに異なる使用画材や技法を知ること、ひいて



代表の齋藤氏（左）と今村氏（右）



モニター付き実体顕微鏡による作業



修復報告書

はより適した作品保存方法を導き出すことにも繋がるのです。美術館のニーズは、単に「損傷を治す」だけでなく、「作品素材や劣化の詳細を把握し科学的根拠データを提供出来る」修復士なのです。

そこで、ものづくり補助金を利用し、「高精度な作品調査・修復作業」と「詳細な修復報告書の提供」を目指し、モニター付き実体顕微鏡及びグロスチエッカー等の設備導入に至りました。これにより、ルー

ペの拡大倍率が3倍から200倍になり、例えば目視では確認できなかったカビの発生が確認でき、適切な殺菌処理が可能になる、また高倍率視野下での画面洗浄では絵具層にダメージを与えない限界まで汚れの層が洗浄でき、洗浄処置効果の向上がありました。さらに顕微鏡画像

データの取得、グロスチエッカーにより画面の艶を数値化することで、修復報告書に作品素材や損傷状態を詳細に記載することが可能となり、他社との差別化が図られました。併せて、作品カルテと修復報告書作成を連動させるシステムの導入で、修復事例のデータ蓄積、適切な処置の迅速な選択による業務効率化や、修復作業の見える化に繋がりました。

【今後の展望】

技術面はもちろん、お客様が費用面でも安心して修復依頼をできるようにしたいです。例えば、お客様から「茶色の汚れ」と聞いても、原因がニスと埃では修復の処理が全く違うため、見積額と最終の請求額が大きく異なるなど、業界的に

修復費の相場がわかりにくい状況があります。そこで、当社は必ず見積前に作品を確認し、まず「調査報告書」を作成、修復方針を決定のうえ、明瞭な見積書による修復の提案を常としています。「作品を見ず概算で出す見積」に比べ当社の見積方法は、事前に当社に作品を運送いただく必要があります。報告書の無料作成による当社の負担増も危惧しました。しかし、当社独自の「絵画運送ケース」を導入しつつ継続しているこの取り組みにより、「調査報告書+見積書」からの受注はほぼ100%です。

今後もより油彩画修復を身近な仕事と感じていただき、お客様の「この作品を残したい」という気持ちに応えるため、技術、信頼ともに得られるよう頑張ります。
(組織支援二課 林)

企業データ

絵画修復工房YeY
代表 齋藤裕子
所在地：岡山市中区徳吉町2・5・11
業 種：技術サービス業
TEL：(086)201・8263
ホームページ：http://studioyey.jp/